

第6学年 生徒指導の機能を生かした道徳学習指導案

1 主題名

基礎的・基本的な学ぶ力を身につけ、豊かな心を育む学習指導の実践研究
～心に響く力のある資料を通して、いじめを考える～

2 主題設定の理由

- 本主題は、「だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める」ことを主なねらいとしている。いじめによる自殺が後を絶たない今、いじめについて考えさせる授業の提案を、生徒指導という立場であることから考えてみたいという思いがあった。しかし現実として、「いじめは悪いこと」と頭では分かっている、どこか自分とは関係のないものという認識が残ってしまう傾向が見られ、いじめを考えさせることの難しさを感じていた。教師による価値観の押しつけであっては児童の心に響かない。目指す授業は、児童自身が「いじめは、いけない」と言えるかどうかという自分探しの旅をしていくものである。そこで今回は、“読むだけで緊張するような優れた教材”である資料「わたしのいもうと」を使って授業を組み立てることにした。私自身、初めてこの資料を読み上げた瞬間、こみあげてくるものをとどめることができないう気持ちに駆られた。この押さえられない気持ちを児童にも感じさせることができれば、いじめについて深く考えさせることができるのではないかと考えた。教材から導き出される心の叫びを感じさせるような力のある教材は児童に考える場を生むと考え、本主題を設定した。

3 学級の実態（男子17名、女子16名、合計33名）

- 本学級の児童は3クラス間でクラス替えがあり、担任は6年生からの受け持ちである。自己主張する児童は少なく、全体的に大人しい雰囲気であるが、「自分さえ良ければいい。」という考え方が根強く残っている。学校生活の中で友達同士言い争いになったりすることはほとんど見られないが、大人の目の届かない所で仲間外しをしたり、無視をしたりすることが時々起こっている。
1学期末に、いじめに関するアンケートを行った。「学校は楽しいですか？」の質問では31名（100%）の児童が「楽しい」と答えている一方で、「今、あなたのクラスに、あのお友達心配だな（困っているんじゃないかな）と思う人がいますか？」の質問では、6名（20%）の児童が「ちょっといる」と答えている。「そのお友達は、どんなことで困っていると思いますか？」の質問では、「友達とけんかしているのかも」、「ちょっといじめられているのかも」、「一人ぼっちであるからかも」と答える児童がそれぞれ2名（6%）ずついた。最後に、「困っていること、いやなことをちょっとでも減らしていくために、何かできそうなことがありますか？」の質問では、ほとんどの児童が「お家の人に話してみる」、「先生に話してみる」、「お友達に話してみる」と答えている一方で、「がまんしてみる」と答えた児童が4名（13%）、「思いつかない」と答えた児童が5名（16%）いた。ここが授業後のアンケートでどう変容していくかに注目していきたい。

4 本時指導にあたって

- 本資料は、いじめにあった妹が心身ともに深刻な被害を受け、次第に心を閉ざしていき、最後には命を落としてしまうという真実の話である。教材から導き出される心の叫びをより強く感じさせるために、資料を前半部分と後半部分に区切ることにした。前半部分の内容は、転校、いじめの始まり、エスカレートしていく様子、不登校となる様子が書かれている。新しい町に引っ越した時の希望あふれる気持ちと、いじめにより登校拒否になった場面の気持ちとを対比させることで、妹の

心の大きな落差を感じ取らせたい。次に、資料の後半を予想させる。ここで様々な予想を交流させることで、実際の資料と出会った時の心の揺れがより一層大きくなると考えるからである。次に後半部分の資料を提示し、最後には妹が命を落としてしまうという衝撃的な事実に触れさせることで、大きな心の揺れを引き起こしていく。ここで、いじめの人、いじめられる人、それを見ている人の立場に分かれて役割演技を行う。教材によって心が揺れている時に役割演技を行うことで、児童の本音を引き出せるのではと考えたからである。いじめの現場を目の前にして、どんな言葉や行動がとれるのかを一人ひとりに考えさせていきたい。

そして最後に、本時学習の感想を書くことで学習を振り返り、教師の話を通して希望を持って終われるようにしていきたい。

5 福岡市生徒指導研究委員会の基本的な考え方より

福岡市の生徒指導研究委員会では『～「自己指導力」を高める研究を進めることで、子ども自身が考え、判断し、行動し、問題解決する力を育て自己実現を図ることができるようにすることは、現在の教育課題を解決する上で重要～』としている。また、それらを補説して以下のように記している。

生徒指導とは、本来、一人ひとりの生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力を育成し、さらに、将来において社会的に自己実現できるような資質・能力を形成していくための指導・支援であり、個々の生徒の自己指導力の育成をめざすものである。(文科省：生徒指導資料20集より)

自己指導力を身につけ、高めるとは

- ① 自己をありのままに見つめる自己受容、自己への深い洞察を加えた自己理解
- ② 自らが追求しつつある目標の確立や明確化
- ③ 目標達成のための自発的・自主的な行動の選択・決定
- ④ 責任ある実行力

つまり、『自己指導力』とは下記のような力である。

その時、その場で、どのような行動が最も適切であるかを、子ども自身が考え決断して実行できる力

6 生徒指導の視点に立った目標

- 自己決定の場を設定する
 - ・ 相手のことを思いやり、友だちをからかうような内容にならないように、真剣に考えて答えを出す。
- 自己存在感を持たせる
 - ・ 自分のことをたくさん知ってくれていたり、知ろうと努力してくれていたりする友だちがいることを痛感する。
 - ・ 自分のことを大切にしてくれたり、助けてくれたりしてくれる友だちがいることを知る。
- 共感的人間関係を育成する
 - ・ 友だちの発言で、自分と違う考えでも、「○○さんはそう考えたんだな。」と共感的に聞く。

7 本時目標

いじめを受けた妹について考えることを通して自分の考えを持ち、だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める態度を養う。(高4—3 公正・公平)

8 準備

資料「わたしのいもうと」(松谷みよ子 文、味戸ケイコ 絵 偕成社)

「わたしのいもうと」の挿絵、プロジェクター、学習プリント

学習活動と主発問	子どもの姿	生徒指導の視点に立った工夫	配時
<p>1 資料「わたしのいもうと」の前半部分を読み、めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">いじめについて見つめ直そう。</div> <p>2 前半部分の内容について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">引っ越してきた時、妹はどんな気持ちだったのでしょうか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">いじめを受けた時、妹は心の中でどんなことをつぶやいていたと思いますか。</div> <p>3 後半部分の内容を予想し、意見を交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">この後、妹はどうなっていくと思いますか。</div> <p>4 後半部分を読む。 <p>5 ロールプレイの説明を聞き、実習する。 (1) 説明を聞き、自分の行動を考える。</p> </p></p></p></p>	<p>・いじめをするなんて、妹がかわいそう。</p> <p>・これからの学校生活が楽しみだな。</p> <p>・私が何をしたの。もう学校に行きたくない。</p> <p>・心の傷は簡単に消えず学校にいけないまま。</p> <p>・先生がいじめに気づき、解決するのは。</p> <p>・死んでしまうほど、妹は追い込まれていたんだ…。</p> <p>・勇気があるな。</p> <p>・僕にできるかな。</p>	<p>○ 妹の気持ちを想像しやすくするために、プロジェクターを使って挿絵を示す。</p> <p>○ 妹の気持ちを想像しやすくするために、挿絵やふきだしを黒板に示す。</p> <p>○ 引っ越して来た時といじめを受けていた時の気持ちの落差を感じられるように板書する。</p> <p>○ 自由に意見を交流できるように、指名なしで意見を交流させる。【共感的人間関係】</p> <p>○ 黒板に記された一番自分の思いに近い意見に、名前磁石を貼らせる。【自己存在感】</p> <p>○ 妹の気持ちを想像しやすくするために、プロジェクターを使って挿絵を示す。</p> <p>○ 自分だったらどうするかを、真剣に考えさせる。【自己決定の場の設定】</p>	<p>⑤</p> <p>⑩</p> <p>⑮</p> <p>⑤</p> <p>⑳</p>
<p>(2) ロールプレイをする。</p>	<p>・いじめはやめる。絶対に許さないからな。</p>	<p>○ 全員をロールプレイに参加させ、行動する事の難しさと大切さを感じさせる。 【自己決定の場の設定】【自己存在感】</p>	
<p>「それでは、ロールプレイを始めます。全員立ちなさい。今からあなた達の目の前で、「わたしのいもうと」と同じいじめが起こります。このいじめの被害者は、このままではいじめによって命を落としてしまいます。あなた達は、どんな行動をとりますか。だれからでもいいです。ワークシートに書いたような自分の思いを、言葉や行動で表してみてください。</p>			
<p>6 振り返りをする。 (1) 教師の話聞く。 (2) “今日の学習で”を書く。</p>	<p>・人の関わり次第で、死なせてしまうことも、生かすこともできるんだ。</p>	<p>○ 自分の関わり次第で、人を死なせてしまう事も生かす事もできる事に気づかせる。 【自己存在感】</p> <p>○ 学習を通して感じたこと、思ったことをお互いに出し合う。【共感的人間関係】</p>	<p>⑤</p>

※1 <場面設定>

学年は授業学年と同じ6年生とする。いじめる子、いじめられる子、それを見ている子もみんな同じクラスと設定する。

※2 <どのようにいじめるのかのシナリオについて>

省略

※3 教師の説話

私が中学校一年生の時、野球部の中でいじめが起きました。実は私自身が、友達を傷つけていたのです。小学校からすごく仲が良かった友達だった〇〇君を、無意識のうちに言葉で傷つけていたのです。「下手くそ。やる気がないんなら止めてしまえ。」などの厳しい言葉を言って…。

そんな厳しい言葉を、私は毎日のように言っていました。その時は、「強いチームをつくりたい。」という気持ちで、いいことをしている気持ちでいました。昔からの友達だから、厳しい言葉を言っても大丈夫だと勝手に思っていたのです。

休みの日、私は〇〇君に、いっしょに釣りにいこうと誘いました。すると、

「ごめん、今日は家にいるよ。ごめんね。」と断られました。

「なんか元気ないな。何かあったのかな。」

段々と元気がなくなっていく様子に気がついていましたが、それがまさか自分に原因があったなんて想像もしていませんでした。

〇〇君は時々練習にも休むようになりました。ある日の練習中、ミスをした〇〇君にまた厳しい言葉をかけました。「何してるんだ。下手くそ。何回も同じミスするなよ。」〇〇君は「ごめん。」といったまま下を向いています。その時、チームの仲間が私に向かってきて言いました。

「一生懸命やってるやつに、下手くそなんていうな。お前は言葉がきつすぎるんだよ。傷つけてるだけだろ？いじめているのといっしょやないか！」

〇〇君はその言葉を聞いて、声をあげて泣き出しました。私はショックでした。元気がなかった理由が、自分の厳しい言葉で心が傷ついていたことが原因だったと、その時はじめて知ったのです。大切な友達と思っていた人に、今まで何てひどいことをしていたのだろう。

その日の夜、家族で友達の家で謝りにいきました。これまで辛い思いをさせたことを、泣きながら何度も謝りました。

先生は、とっても大切なことを学びました。人は、知らず知らずに人を深く傷つけている時があること。これからは、人の気持ちをいつも考えて言葉を言おうと心に誓いました。そして、先生自身を本気で怒ることで間違いに気づかせてくれた友達にも心から感謝しています。その友達とは今でも大親友です。

先生の話はこれでおしまいです。今日の学習が、何かこれからを生きるヒントになってもらえたらうれしいです。